

2014年度 一般社団法人日本社会福祉学会事業報告

(2014年4月1日～2015年3月31日)

2014年度は、前年度に引き続き社会福祉学分野の学問的水準の向上に向けて学術研究集会などの活動、学会機関誌の刊行などの活動を行うとともに、事務局業務の全面委託を行い、長期にわたり安定した学会運営のために動き出した一年となった。

I. 学術研究集会、講演会等の開催

1. 全国大会

1) 第62回春季大会報告

「2014年度定時社員総会」開催にあわせて、2014年5月25日（日曜日）に東洋大学白山キャンパスで開催された。2013年度に日本社会福祉学会学術賞を受賞された小原真知子会員の講演「要介護高齢者のアセスメント—退院援助のソーシャルワーク」が行われ、その後「開かれた学、批判の学としての社会福祉学の展開～一番ヶ瀬社会福祉研究の検証と継承～」をテーマにシンポジウムを行い、184名が参加した。

2) 第62回秋季大会報告

2014年11月29、30日（土・日曜日）に早稲田大学で「社会福祉は日本の未来をどう描くのか」をテーマにして開催し、1,016名が参加した。『報告要旨集』を大会ホームページに事前公開するとともに『大会プログラム』も大会ホームページに公開するやり方については、会員の理解も深まり、ほぼ定着したように思われる。また今大会においても、大学院生等の学生会員に対して事前申請者には参加費を免除することとし、72名からの大会参加費免除申請があった。

3) 第63回全国大会に向けての準備

第63回春季大会は、2015年5月31日に法政大学市ヶ谷キャンパスで「社会福祉をとらえる総合化の論点—理論・政策・実践—」をテーマに開催する。我が国が抱える国民生活を総合的に支えていくための社会福祉のさまざまな課題に対して、社会福祉の役割をどのようにとらえていく必要があるのか多角的に検討するためのシンポジウムを行う。

第63回秋季大会は、2015年9月19日（土曜日）・20日（日曜日）に久留米大学で「社会福祉学は現代社会にどのように貢献してきているのか」をテーマに開催予定である。

4) 第64回秋季大会について

2016年度第64回秋季大会は、佛教大学（京都府）で開催することが決定した。

2. 日本社会福祉学会フォーラム

2014年度は、2月8日（土曜日）に「地域包括ケアシステムの構築に向けた論点」をテーマにして、学会の中部地域ブロックと共催で、金城学院大学を会場にしてシンポジウムを開催した。参加者は139名であった。

3. 地域ブロック研究大会については、各地域ブロックからの事業報告に記載されている。

Ⅱ. 学会機関誌「社会福祉学」その他刊行物の刊行

1. 学会機関誌「社会福祉学」刊行

1) 機関誌編集委員会活動

①機関誌編集委員会構成

2014年度総会開催後から2016年度総会までの機関誌編集委員会を以下の17名で構成することとなった（敬称略）。

委員長：柴田謙治、副委員長：小西加保留

委員：坪洋一、岩永理恵、沖倉智美、奥西栄介、金子絵里乃、木下武徳、久保美紀、志村健一、滝村雅人、竹本与志人、野口友紀子、三島亜紀子、室田信一、山本真実、結城俊哉

②投稿論文による英文誌の編集・刊行

英文誌『Japanese Journal of Social Welfare』（JJSW）を電子ジャーナル（一部印刷媒体）として編集（投稿8本、査読の結果1本掲載決定）、刊行。

③機関誌編集委員会開催

2014年度には編集委員会を7月6日(日)の午後、9月28日(日)の午後、1月11日(日)の午後、3月29日(日)の午前に、計4回開催した。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、8月、11月、2月、5月に実施した。また、査読委員を含めた拡大編集委員会を、第62回秋季大会にあわせて11月29日(土)の12時10分から50分に、早稲田大学で開催した。

2) 機関誌「社会福祉学」刊行

2014年度には和文誌を4回(55-1/55-2/55-3/55-4)発行した。

掲載内容・発行月・印刷部数は以下の通り。

巻／号	55-1	55-2	55-3	55-4
発行月	2014年5月	2014年8月	2014年11月	2015年2月
論文	9	5	7	6
実践報告			1	
調査報告		3	1	
資料解題				
書評	3	2	1	2
文献紹介	1	1	3	
学会回顧・展望			10	
全国大会等				5
総ページ数	141	131	274	130
印刷部数	5,300	5,300	5,300	5,300

※ なお、英文誌の刊行は予定より遅れているが、5号として5月末に刊行予定である。

2. 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックの機関誌発行状況は、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

Ⅲ. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本社会福祉学会 学会賞

1) 2014 年度学会賞の審査委員会は、古川孝順委員長、福山和女委員、松原康雄委員、牧里毎治委員、太田卓司委員、大友昌子委員、岡部卓委員(前学会賞担当理事)と学会賞担当の鬼崎信好理事で構成され、2013 年 1 月から 12 月までに刊行された図書及び論文を審査した。

2) 審査対象研究業績

2013 年 1 月から 12 月までの刊行された研究業績の内、会員からの推薦 12 件、国立国会図書館検索システムから抽出した 3013 件、「アマゾンリサーチ検索」から抽出した 22 件より、会員業績の 19 件を審査対象とした。論文部門は、本学会機関誌掲載論文 14 件(第 53 巻 4 号、第 54 巻 1～3 号)を審査対象とした。

3) 審査の経緯

第 1 回審査委員会 (2014 年 3 月 4 日開催)

上記の審査対象の研究業績について審査を行い、19 件の単著、14 件の論文を第 1 次査読対象とした。

第 2 回審査委員会 (2014 年 6 月 9 日開催)

第 1 次審査対象図書の査読結果を報告し、第 2 次審査対象として、5 件の単著、5 件の論文を選考し、委員全員で査読することとした。

第 3 回審査委員会 (2014 年 9 月 8 日開催)

第 2 次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り、奨励賞 (2 名) の授賞者を決定した。

○奨励賞(著書部門)

高瀬幸子会員「在宅高齢者へのソーシャルワーク実践：混合研究法による地域包括支援センターの実践の分析」明石書店、2013 年 11 月 30 日刊。

○奨励賞 (論文部門)

上村勇夫会員「知的障害者とともに働く特例子会社の一般従業員の支援実態と困難感」『社会福祉学』第 54 巻 1 号、2013 年 5 月 31 日刊。

4) 学会賞授賞式

2014 年 11 月 29 日、第 62 回日本社会福祉学会秋季大会(於：早稲田大学)において授賞式が行われ、古川孝順委員長の挨拶及び経過報告がなされた後に、岩田正美会長より奨励賞を 2 名の会員に授与された。

2. 地域ブロックへの研究奨励

「日本社会福祉学会地域ブロック助成金配分基準」に基づいて、各地域ブロックの研究事業を支援した。各地域ブロックの下の「地域部会委員会」が中核となり、事業計画に基づいて活動が展開された。その事業内容は各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

Ⅳ. 関連学術団体との連絡および協力

1. 日本社会福祉系学会連合

本学会の副田あけみ副会長を会長、事務局長として和気純子理事、運営委員として梅崎薫会員と小櫃俊介会員を派遣している (いずれも任期は 2013 年 4 月～2016 年 3 月)。また、本学

会の学会事務局と同様に、日本社会福祉系学会連合として、加盟学会との連絡、資料作成、経理処理等の事務局業務について（株）国際文献社と委託契約を締結している。

災害福祉学の構築にむけて、東洋大学福祉社会研究開発センターとの共催により、2014年9月20日に「災害福祉学の構築に向けて一社会的孤立の防止と自立支援」というテーマでシンポジウムを開催した。このシンポジウムについては報告書が作成され、学会連合ホームページに掲載されている。また、災害福祉研究の成果を蓄積し、災害福祉学の構築に寄与する観点から、学会連合ホームページ内に「災害福祉研究アーカイブ」がつけられた。本学会としてもこの取り組みを支援するため、学会ニュース等において情報収集のための広報活動に協力した。

2. その他の関連団体との連携

「社会政策関連学会協議会」「社会学系コンソーシアム」「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」に理事等役員を派遣し、連携に努めた。

V. 国際的な研究協力の推進

1. 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流

1) 韓国社会福祉学会への派遣

2014年4月25日～26日に韓国・釜山市ベクスコにて開催された韓国社会福祉学会春季大会にシンポジストとして岡部卓会員と布川日佐史会員を派遣した。学会役員として岩田正美会長、門田光司国際学術交流促進委員会委員長、金圓景国際学術交流促進委員が出席した。自由研究発表として2題（参加会員2名）が報告された。

2) 中国福祉研究専門委員会第6回年次大会への派遣

2014年7月7日～8日に中国・南京大学にて開催された中国福祉研究専門委員会第6回年次大会に学会公式訪問者として副田あけみ副会長、白澤政和前会長、羅佳国際学術交流促進委員を派遣した。

3) 2014年度国際学術交流シンポジウムの開催

2014年11月30日の第62回秋季大会へ韓国、中国より招聘者を招きシンポジウムおよび懇親会を行った。また、秋季大会前日の11月28日に日中韓三カ国協議を開催した。

*詳細については国際学術交流促進委員会の活動報告に記載されている。

2. 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

2014年度11月29日開催第62回秋季大会において留学生ワークショップを実施し、金貞任会員による基調講義および、4名の在日留学生会員によるパネル報告を行った。

VI. 学会の組織・運営

1. 会員の動向

1) 入会について

2014年度の入会許可者数は、212名である。

2) 会員の動向

2014年度212名が入会し、退会者が239名で、2015年3月31日現在の会員数は4,943名である。

3) 名誉会員数

小倉襄二先生が 2014 年 12 月 7 日に逝去され、2015 年 4 月 30 日現在の名誉会員は下記の 15 名である (50 音順、敬称略)。

阿部 志郎 井岡 勉 右田 紀久恵 太田 義弘 岡本 栄一 岡本 民夫
小川 政亮 忍 博次 柏木 昭 児島 美都子 高島 進 田端 光美
中垣 昌美 仲村 優一 三浦 文夫

2. 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会

「定款」第 29 条の規定に基づいて、「定時社員総会」を第 62 回春季大会に併せて開催した。出席代議員は、111 名 (委任状 66 名含む) であった。

審議事項および報告事項は、以下の通りである。

開催日時：2014 年 5 月 25 日 (日) 10:00~12:00

開催会場：東洋大学白山キャンパス 「1101 番教室」

審議事項

1. 2013 年度事業報告
2. 2013 年度決算報告
3. 2013 年度監査報告
4. 第 4 期役員承認について
5. (社) 日本社会福祉学会代議員選挙規則の一部改正について
6. (社) 日本社会福祉学会経理規程の一部改正について
7. (社) 日本社会福祉学会 2014 年度事業計画および当初予算について

報告

1. 事務局全面委託について
2. 次期役員体制について
3. その他

3. 理事会

2014 年度は、学会の諸課題を検討し、学会運営を円滑に遂行するために 6 回開催した。

役員構成は、別表-①の通りである。

審議事項は、以下の通りである。(報告事項は除く)

第 1 回理事会 (2014 年 5 月 24 日開催)

- 審議事項
1. 2013 年度事業報告・決算について
 2. 2014 年度事業計画・当初予算 (案) について
 3. 第 4 期役員の承認について
 4. 委員会の構成について
 5. 新入会員の承認について
 6. その他

第 2 回理事会 (2014 年 5 月 25 日開催)

- 審議事項
1. 会長の選定

第3回理事会（2014年7月20日開催）

- 審議事項
1. 各種規定・内規の改廃
 2. 委員会の委員の選出と委嘱
 3. 渉外関係の委員選出
 4. 入会審査について
 5. 第64回秋季大会開催予定校について
 6. 国際交流委員会からの審議依頼
 7. 後援依頼の手続きについて
 8. その他

第4回理事会（2014年9月21日開催）

- 審議事項
1. 入会審査について
 2. 2015年度業務委託費契約について
 3. 2014年度学会賞受賞者について
 4. 後援に関する内規制定について
 5. 機関誌価格改定と消費税区分について
 6. CiNii終了に伴うJ-Stage Liteへの移行について
 7. パブリックコメント依頼に関する承諾ルールについて
 8. その他

第5回理事会（2014年11月28日開催）

- 審議事項
1. 入会審査について
 2. 2015年度業務委託費契約について
 3. 日韓における社会福祉に関する研究交流の推進に関する覚書について
 4. 2015年度春季大会について
 5. 2015年度秋季大会について
 6. 国立大学教育研究評価委員会専門委員および機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦について
 7. ロゴマークの策定、レターヘッド、封筒の作成
 8. その他

第6回理事会（2015年3月8日開催）

- 審議事項
1. 入会審査および退会希望者について
 2. 2015年度事業計画案および予算案
 3. 2015年度総会の議案書（案）
 4. 大会運営委員会委員の委嘱と解嘱について
 5. 名誉会員推挙
 6. 韓国社会福祉学会自由研究発表者の選定
 7. 外部監査について
 8. 2014年度事業報告書・決算書の提出について
 9. 第63回春季大会、秋季大会プログラムについて
 10. 補正予算について
 11. その他

4. 運営委員会

各回の理事会に先立ち、事業計画を踏まえ、事業状況を確認すると共に各種委員会から提案された課題・報告事項、事務局会議からの課題・報告事項を確認、整理するために、会長、副会長、総務担当理事、研究担当理事、財務担当理事、機関誌編集担当理事をメンバーとする運営委員会を開催した。

5. 監査

定款第20条に基づいて、2014年度上半期の監査を11月12日に実施し、11月28日開催の理事会で業務状況および予算状況について報告を行った。また、2014年度全体の監査を2015年5月12日に実施し、理事会および定時社員総会にて法人の業務状況および財産の状況報告を行った。

6. 各種委員会の活動（委員会構成は別表一②）

1) 研究委員会

1. 2014年度において推進した事業

(1) 全国大会およびフォーラム担当研究委員会委員の選出

①2014年度総会終了後から2016年度総会終了までの委員

秋元美世 鬼崎信好 久保美紀 倉田康路 後藤広史 都築光一 原田正樹 山縣文治（委員長） 和気純子

②前期から継続し、2014年度終了までの委員

岩崎香 田中英樹 増田和高

③2014年度総会終了後から2015年度終了までの委員

片岡靖子 門田光司

④2014年度1月以降2016年度終了までの委員

岡村正幸 岡崎祐司

(2) 第62回（2014年度）春季大会の開催

テーマ：開かれた学、批判の学としての社会福祉学の展開

～一番ヶ瀬社会福祉研究の検証と継承～

月 日：2014年5月25日（日）

会 場：東洋大学白山キャンパス

参加者：184人

その他：当日配付資料はHPに掲載 当日発言要旨は、社会福祉学（55-4）に掲載

(3) 第62回（2014年度）秋季大会の開催

テーマ：社会福祉学は日本の未来をどう描くのか

月 日：2014年11月29日（土）、30日（日）

会 場：早稲田大学早稲田キャンパス

参加者：1,016人

その他：要旨集等はHPに掲載

(4) 第11回日本社会福祉学会フォーラムの開催

テーマ： 地域包括ケアシステムの構築に向けた論点

月 日： 2015年2月8日(日)

会 場： 金城学院大学

参加者： 139人

その他： 当日配付資料等はHPに掲載

(5) その他

委員会の開催(3回)

2. 現在、検討している事項

- ・年間スケジュールの確認
- ・第63回(2015年度)春季大会の内容最終調整
- ・第12回学会フォーラムの内容検討

3. その他(課題等)

(1) 学会フォーラムの開催ブロックの確認

2015年度 第12回 関西ブロック

2016年度 第13回 中国・四国ブロック

2017年度 第14回 九州ブロック

2018年度 第15回 北海道ブロック

2019年度 第16回 東北ブロック

2020年度 第17回 中部ブロック

※原則として春季大会を関東で開催するので、学会フォーラムは関東ブロックでの開催は外す。

2) 学会賞審査委員会

1. 2014年度において推進した事業

(1) 学会賞の選考について

2014年度学会賞の審査委員会(2年目)は、古川孝順委員長(西九州大学)、福山和女委員(ルーテル学院大学)、松原康雄委員(明治学院大学)、牧里每治委員(関西学院大学)、太田卓司委員(聖隷クリストファー大学)、大友昌子委員(中京大学)、岡部卓委員(前学会賞担当理事)と鬼崎信好学会賞担当理事(久留米大学)で構成され、2013年1月から12月までに刊行された図書及び論文を審査した。

① 審査対象研究業績

2013年1月から12月までの刊行された研究業績の内、自薦・他薦された図書(12点)以外に、国立国会図書館到着発送情報において社会福祉学に関わる文献として該当する3013点を選び、かつそれらが日本社会福祉学会会員の対象業績であるか否かをチェックした42点の中から、さらに岡部卓委員が中心になり学会賞の審査対象になると考えられる4点を抽出した。さらに、今回から新

たに「アマゾンリサーチ検索」も活用した結果、上記検索著書以外に会員業績を 22 点抽出することができた。これらの中からルポルタージュ、翻訳書、随想及びテキストなどを除外し、最終的に推薦図書 3 点、他の出版図書リストからの図書 16 点(合計 19 点)を第 1 次審査対象とすることに決定した。

論文部門は、本学会機関誌掲載論文 14 点(第 53 巻 4 号、第 54 巻 1～3 号)を審査対象とした。

② 審査の経緯

◆第 1 回審査委員会 (2014 年 3 月 4 日開催)

上記の審査対象の研究業績について審査を行った。昨年の審査の際に論議があった「研究実践上の貢献」を審査の対象に審査することを確認した。審査項目は、①研究の意義、視点、方法の明確性、②記述の明晰性、記述表現の妥当性、③先駆性、開拓性、独創性、④研究の完成度、成果度、⑤研究実践上の貢献度の 5 項目とし、各項目の 5 点満点で評価することを確認した。

第 1 次審査に残った著書 19 点については、1 点につき 2 人の審査委員を選び、上記の 5 項目に焦点を当て審査することにした。自由記述でコメントを付することにした。論文部門についても、著書と同様にした。

◆第 2 回審査委員会 (2014 年 6 月 9 日)

第 1 次審査対象図書の査読結果を報告し、第 2 次審査対象として、5 点の著書、5 点の論文を選考した。

◆第 3 回審査委員会 (2014 年 9 月 8 日)

第 2 次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り奨励賞 (2 名) の授賞者を決定した。著書部門に残った単著は 5 点であるが、いずれも審査委員からの高い評価を得た。審査委員会で活発な議論がなされ、2014 年度の著書部門では、学術賞の該当者なしと判断し、奨励賞 1 点を選出した。論文部門は第 2 次審査の候補になった 5 点の論文について審査し、最終的に 1 本の論文を奨励賞に選んだ。

○奨励賞(著書部門)

高瀬幸子会員「在宅高齢者へのソーシャルワーク実践：混合研究法による地域包括支援センターの実践の分析」明石書店、2013 年 11 月 30 日刊。

○奨励賞 (論文部門)

上村勇夫会員「知的障害者とともに働く特例子会社の一般従業員の支援実態と困難感」『社会福祉学』第 54 巻 1 号、2013 年 5 月 31 日刊。

(2) 学会賞授賞式について

2014 年 11 月 29 日、第 62 回日本社会福祉学会秋季大会(於：早稲田大学)において授賞式が行われ、古川孝順委員長の挨拶及び経過報告がなされた後に、岩田正美会長が奨励賞を 2 名の会員に授与した。

3) 国際学術交流促進委員会

1. 2014年度において推進した事業

(1) 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

①韓国社会福祉学会春季学術大会参加

2014年4月25日(金)、26日(土) 韓国・釜山市ベクスコ (Bexco)

学会公式訪問者：岩田会長、門田国際学術交流促進委員長、金国際学術交流促進委員
国際シンポジウム「勤労貧困層 (Working Poor) に対する社会福祉政策と実践」

シンポジスト：岡部 卓 (首都大学東京)「日本における貧困・低所得者対策の動向」

布川日佐史 (法政大学)「貧困・低所得者への自立・就労支援の課題」

李サンウン「韓国のワーキングプア支援政策の現況と評価」

白ハギョン「自活と地域社会」

討論者：ヨ・ヨンフン (全北大学)、黄ミヨン (釜山カトリック大学)

個人自由研究発表者：高橋明美 (明星大学)、崔仙姫 (首都大学東京)

②中国社会福祉研究専門委員会第6回年次大会への参加

2014年7月7日(月)、8日(火) 中国・南京大学

学会公式訪問者：副田副会長、白澤前会長、羅国際学術交流促進委員

白澤政和 (基調講演) 「日本における地域包括ケア：ガバナンスの視点から」

副田あけみ (基調講演)「日本社会福祉学会の活動」

③2014年度 日韓国際シンポジウムの開催

2014年11月30日(日) 9時30分～12時 於：早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

シンポジウムテーマ「リスク社会に向けた社会福祉の展望」

岩永理恵 (神奈川県立保健福祉大学)

「リスク社会において社会福祉に求められていること」

斉藤雅茂 (日本福祉大学)

「高齢者の社会的孤立をめぐる地域福祉実践の評価と課題」

Yoon Hyunsook (翰林大学校社会福祉学部、韓国社会福祉学会次期会長)

「韓国高齢者の自殺と社会福祉の対応戦略」

Choi Hyeji (ソウル女子大学校社会福祉学科)

「韓国における老人ドルボミの需要及び労働市場の展望」

Peng Hua-Min (南京大学)

「社会リスクにおける中国の社会扶助政策改革に関する研究

～パラダイム・理念・福祉供給～」

コーディネーター 松端克文 (桃山学院大学・国際学術交流促進委員)

④日韓社会福祉学会 会長・役員協議

i. 2014年4月25日(金) 韓国・釜山市ベクスコ

岩田会長、門田国際学術交流促進委員長、金委員

協議内容：覚書改正について、今後のスケジュール、その他

- ii. 2014年11月28日(金) 17時～17時45分 於：早稲田大学国際会議場市島記念会議室
日本側出席者：岩田正美会長、岩崎総務担当理事、黒木副会長・国際学術交流促進委員長、松端理事・国際学術交流促進委員、金委員、蘇委員
韓国側出席者：金永鐘会長、金新烈アジア学術交流委員長、ユン・ヒュンスク次期会長、李周桓事務局長、
協議内容：覚書改正について、2015年&2016年度学術交流主題テーマについて協議の結果、「日韓におけるコミュニケア研究 日韓比較から学ぶ(仮)」とする。

⑤日本社会福祉学会・韓国社会福祉学会との覚書調印式

2回の協議を経て、11月28日に「学術交流覚書」の改正をした。両学会会長による調印式を行った。

【改正点】

- i. 覚書2 学術研究大会への代表者の招待 「毎年」を「隔年」に文言修正
これに伴い、韓国社会福祉学会春季学術大会から秋季学術大会へと変更する
ii. 覚書3 個人研究発表は変更なしとする
iii. 覚書改正による2015年度 日韓国際シンポジウム開催国を韓国とする。また2016年度は日本（於：京都・佛教大学）にて開催する。

⑥日韓中三カ国協議

2014年11月28日(金) 17時45分～18時30分 於：早稲田大学国際会議場市島記念会議室
上記の日韓会長・役員協議出席者と中国社会福祉研究専門委員会 彭華民副理事長、朱安新先生、羅国際学術交流促進委員によって協議が行われた。
協議内容：「今後の3カ国社会福祉学学術交流ネットワークの促進に向けて」意見交換した。

⑦名誉会員・国際学術交流関係者・役員・海外参加者による懇親会開催

2014年11月28日(金) 18時30分～20時30分より大隈記念タワーにおいて、韓国社会福祉学会役員・個人研究発表者10名（自由研究発表者 7チーム）、ならびに中国社会福祉研究専門委員会代表者2名を招待しての懇親会を開催した。

⑧海外参加者招聘パーティ

2014年11月29日(土) 21時～22時30分、ホテル・ザ・ビー池袋2Fにて開催

(2) 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

①留学生ワークショップの実施

2014年11月29日(土) 10時～12時 於：早稲田大学国際会議場 参加者40名
基調講義 「社会科学系留学生の現状とキャリア形成」 東京福祉大学 金 貞任
パネル報告 陳 燕（立教大学大学院博士後期課程）
崔仙姫（首都大学東京大学院博士後期課程）
金永鐘（韓国・慶星大学）
彭華民（中国・南京大学）

グループ・ディスカッション

司会：室田信一（首都大学東京・国際学術交流促進委員）

（3）委員会開催

- ①2014年7月24日(木) 15時40分～19時 於：同志社大学今出川キャンパス
寒梅館2C会議室、出席者：5名
- ②2015年1月10日(土) 18時～20時20分 於：同志社大学今出川キャンパス
寒梅館2C会議室 出席者6名

2. 今後の検討事項

（1）三カ国学術ネットワークのあり方について

- ・日本、韓国、中国での三カ国学術ネットワークについては、第23期の国際学術交流委員会で取り組みが開始された。しかし、その後の国際情勢を踏まえ、今後、どのように推進していくかの検討を進めている。

（2）留学生のためのワークショップについて

- ・2014年度秋季大会より、留学生ためのワークショップを開催した。2014年度のふりかえりとともに、全国大会あるいは各ブロックでの取り組みなど2015年度実施に向けて検討していく。

（3）日韓学術交流覚書による国際シンポジウムのあり方 日本社会福祉学会としては隔年開催になったが、今後の実施に向けた検討が必要となった。

3. その他（課題等）

（1）欧米諸国との連携及び学術交流の検討

- ・アジアでも韓国・中国以外の諸国の社会福祉学研究の現況についての情報が不足している。また欧米諸国との学術交流については、2014年度は具体的な協議、情報収集を進めるまでには至らなかった。今後の課題である。

4) 広報委員会

1. 2014年度において推進した事業

（1）広報委員会の開催

○第3期理事会からの引き継ぎ

2014年5月22日(木) 18:00～20:00 会場：国際文献社本社4階会議室

内容：①2013年度からの引き継ぎ内容の確認、②ホームページリニューアルの構成案の検討、③英文誌のネット上での公開、学会ニュース進捗状況

○2014年8月20日(水) 18:30～21:30 会場：国際文献社本社4階会議室

内容：①委員会内の役割分担の確定、②ホームページリニューアルについて、

③学会ニュース67号の内容と依頼分担の確定、④広報委員会だより通算21号の検討

○2015年4月30日(木) 18:00~20:00 会場: 国際文献社本社 4階会議室

内容: ①ホームページ・地方部会ページのリニューアル作業の最終確認、②ロゴマーク決定に関する審議、③学会ニュース 69号の内容と依頼分担の確定、④広報委員会だより通算 23号の検討

(2) 学会ホームページの運営・管理

- ・ホームページリニューアル版の確定と公開
- ・新着情報の掲載と情報の更新
- ・英語版ホームページの情報更新
- ・地方部会ページの充実

(3) 「広報委員会だより」の発行 ※年5回の一斉送信

第20号(2014年6月26日)、第21号(2014年10月22日)、第22号(2015年2月19日)
第23号(2015年5月1日)、第24号(2015年6月25日予定)

(4) 「学会ニュース」の発行 ※ホームページ上に年3回掲載

第66号(2014年6月20日)、第67号(2014年10月14日)、第68号(2015年2月4日)

(5) 学会ロゴマークの募集

- ・学会の存在を広く周知する媒体として、ロゴマークを一般公募によって募集した。
2015年度一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会にて結果を公表する予定。

2. 現在、検討している事項

- ・市民に向けた情報発信機能の強化に関する検討

5) 機関誌編集委員会

1. 2014年度において推進した事業

(1) 学会機関誌「社会福祉学」刊行

①機関誌編集委員会活動

i. 機関誌編集委員会構成

2014年度総会開催後から2016年度総会までの機関誌編集委員会を以下の17名で構成することが、理事会と総会で承認された。

委員長:柴田謙治(理事)、副委員長:小西加保留(理事)

委員:坪洋一、岩永理恵、沖倉智美、奥西栄介、金子絵里乃、木下武徳、久保美紀、志村健一(英文誌担当)、滝村雅人、竹本与志人、野口友紀子、三島亜紀子(英文誌担当)、室田信一(英文誌担当)、山本真実、結城俊哉

ii. 機関誌編集委員会開催

2014年度には編集委員会を7月6日(日)の午後、9月28日(日)の午後、1月11日(日)の午後、3月29日(日)の午前に、計4回開催した。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、8月、11月、2月、5月に実施した。

iii. 機関誌拡大編集委員会開催

査読委員を含めた拡大編集委員会を、第62回秋季大会にあわせて11月29日(土)の12時10分から50分に、早稲田大学で開催した。

iv. 査読委員(2015年1月から2018年12月まで)の選任と委嘱

編集委員会の推薦に基づき、理事会の議事を経て、新規・継続合計268名の会員に査読委員を承諾していただき、委嘱した。

②機関誌「社会福祉学」刊行

2014年度には和文誌を4回(55-1/55-2/55-3/55-4)発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」については、投稿論文8本中1本を掲載し、5月末に5号として刊行できるように編集作業を進めている。

2. 現在、検討している事項

英文誌の掲載論文が少ない場合についての対応

3. その他(課題等)

編集委員会としても、特定の査読者に依頼が集中することがないように配慮しているが、和文誌でも英文誌でも、査読者に辞退されるケースが増えつつあるように感じられる。自分が学会誌に投稿する際には、査読者に査読という手間をかけるのだから、他者の投稿論文等への査読も、可能な限りお引き受けいただくことを願います。

6) 研究倫理委員会

1. 2014年度において推進した事業

- ①研究倫理問題への迅速な対応すべく、研究倫理委員会を適宜開催し、事実確認に関する調査に基づき検討した。
- ②研究倫理指針および研究倫理委員会規定の見直しについての関連資料集収集などの準備を行った。

2. 現在、検討している事項

①研究倫理問題への迅速な対応

倫理問題が発生した場合、速やかに対応する仕組みの検討

②研究倫理指針および研究倫理委員会規定の見直し

これまで本学会において生じた研究倫理に関する問題で、研究倫理指針及び委員会規定に一部課題が認められた内容について見直しの検討を行い、2015年度中に一定のまとめを行う予定。

1. 2014年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

4回開催：2014年7月17日、9月12日、2015年1月7日、2月10日

(2) 研究会 1回開催

研究会（第1回）

日時：2014年11月5日（水）18:30～20:30（終了後、懇親会）

場所：北星学園大学 第二研究棟地下 第一会議室

対象の著書：大友芳恵氏（北海道医療大学）

『低所得高齢者の生活と尊厳軽視の実態：死にゆきかたをえらべない人びと』
（法律文化社、2013年5月発行）

プログラム：1. 大友芳恵氏による研究報告（40分程度）

2. コメンテーターによる質問や意見（10分×2人）

新田雅子氏（札幌学院大学）

伊藤新一郎氏（北星学園大学）

3. 参加者でディスカッション（50分程度）

4. 大友芳恵氏よりディスカッションを受けて（5分程度）

(3) 広報

ニュースレターの発行 1月7日 11月27日

(4) 北海道ブロック研究大会・北海道社会福祉学会第53回大会の実施

大会テーマ 「ケアの現在（いま）」

日時：2015年1月31日（土）10:00～16:00

場所：北海道大学 教育学部棟 3階会議室（札幌市北区北11条西7丁目）

9時30分～ 受付

10時～ 個人研究発表

「支援者の最重度知的障害者の意思決定能力評価に於ける支援経験年数による差異」
長濱 章雄（希望学園）

「わが国における性暴力被害の実際と支援体制」

松本真由美（日本医療大学）

12時～ 休憩

13時30分～基調講演 深田耕一郎氏（立教大学 助教）

「ケアの現在（いま）」

～ポスト社会福祉基礎構造改革時代における「ゆたか」な実践とは何か」

15時 討論・質疑 指定討論者・松川敏道氏（札幌学院大学 准教授）

高橋銀司氏（株式会社5Step 訪問介護員）

16時 終了

(5) 総会

日時：2015年1月31日（土）11:00～12:00 出席者15名

場所：北海道大学

- 議題：①報告事項
- 1) 2013年度 事業報告
 - 2) 2013年度 収支決算報告
 - 3) 2013年度 監査報告
 - 4) 2014年度（4～12月）事業報告
 - 5) 2014年度（4～12月）予算および中間決算報告
- ②議決事項
- 1) 2015年度事業計画（案）
 - 2) 2015年度予算（案・暫定）

(6) 機関紙 「北海道社会福祉研究」第35号（電子ジャーナル）発行

2015年3月 発行 論文2本、研究ノート2本 掲載

東北地域ブロック 2014年度 事業報告書

1. 2014年度において推進した事業

(1) 2014年度日本社会福祉学会東北部会第14回研究大会（岩手大会）の開催

- ・ 開催目的：東北地方の会員に対して、研究成果の発表および情報提供の場とすると共に、相互の親睦をはかる場とする。
- ・ 年月日：2014年7月19日開催
- ・ 開催会場：岩手県立大学
- ・ 概要 2014年7月19日、岩手県立大学滝沢キャンパス共通講義棟101教室を会場に、第14回日本社会福祉学会東北部会研究大会（岩手大会）を開催した。大会のテーマは「東北における福祉サービスの地域格差を考える」と設定し、理事の東北福祉大学教授都築光一氏の基調講演があった。
- ・ 自由研究発表が開催され、5分科会で18本の発表が行われた。

(2) 研究誌「東北の社会福祉研究第10号」の発行

◇研究論文

1) 災害支援システムのマネジメントに関する研究

—アメリカにおける危機管理体制の整理を基に—

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士課程 渡辺 圭

東北福祉大学 森 明人

2) 在宅介護支援を行う職員のとらえる認知症介護困難および良好の特徴

—テキストマイニングを用いた自由記述回答の分析—

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士課程 春川美土里

3) 障害者の就労における「社会的企業」の果たしている役割

—大阪府箕面市および滋賀県の実践事例の分析から—

宮古地区チャレンジド就業・生活支援センター 湊 直司

合同会社地域計画 熊谷 智義

4) 中国山西省における要保護児童の実態に関する一考察

—養育里親制度を中心に—

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士課程 齋 少傑

◇研究ノート

1) 援助者と知的障害児施設の子どもの関係性における「遊び」の重要性

寿光園 熊谷 和史

2) 子育てによる親の成長機会の開拓

—鈴木道太の活動の記録を中心に—

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士課程 今 清孝

3) 「居宅介護支援経過」をもとにしたプロセスレコード活用の可能性についての一考察

—「援助過程分析表」(試案)—

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士課程 岩澤 竜司

4) 公的扶助受給者に関わることの困難についての一考察

—公的扶助サービス論 争と岸・中村論争に着目して—

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科研究生 佐々木剛生

5) 東日本大震災における子育て世帯の家族構成の変化に関する一考察

東北福祉大学 日野さくら

◇調査報告

1) 保育所における保護者支援に関する現状と課題

—保育士に対するインタビュー調査から—

東北福祉大学 米山 珠里

◇日本社会福祉学会東北部会第13回大会(宮城大会)報告

(3) ニュースレターの発行

- ・2014年度日本社会福祉学会東北部会第14回研究大会(岩手大会)の開催結果を掲載した。
- ・幹事会の主要な結果を広報する。
- ・2015年度日本社会福祉学会東北部会第15回研究大会(青森大会)を広報した。
2015年7月4日(土) 青森県立保健大学

(4) 幹事会(役員会)の開催

- ・研究大会に合わせて開催し、この幹事会で翌年度の開催地を決定した。
第一回 幹事会 2014年4月19日(土) 岩手県立大学
第二回 幹事会 2014年7月19日(土) 岩手県立大学

(5) その他特記事項

- ・新理事のもとに、新たな部会の体制を整えた。
- ・学会の関係委員会の情報を収集しながら、地方委員会東北部会として方針を決定し、実施した。

2. 現在、検討している事項

- ・ 研究誌「東北の社会福祉研究第 11 号」の発行の編集作業
研究誌掲載論文の必要な査読作業を行い、掲載の決定に向けた作業を行っている。
- ・ ホームページを設けていないので、今後開設に向けた協議に入る必要があり、学会本部の方針に沿って対応する。
- ・ 研究誌の電子化に向けた協議を行う。

関東地域ブロック 2014年度 事業報告書

1. 2014年度において推進した事業

(1) 運営委員会（於：東洋大学白山キャンパス）

○第 1 回（2014.5.16）、第 2 回(2014.8.27)、第 3 回(2014.11.12)、第 4 回(2015.3.15)の計 4 回開催

○執行体制：2014 年度より新体制にて運営。

担当理事：高山直樹、経理担当：大島巖、監事：森田明美

○来年度の運営委員の確認

○各部会活動の実施・運営（広報委員会、社会福祉学評論編集委員会、大会部会、その他）

(2) 関東部会研究大会

○2014 年度研究大会を 2015 年 3 月 15 日に開催（於：東洋大学白山キャンパス）

・大会テーマ「社会福祉学研究と実践の新たな枠組み—ソーシャルアクションを志向する研究・実践に求められるもの—」

・記念講演：記念講演（学会賞奨励賞受賞者：単著書部門と論文部門の 2 名）

・基調報告：「再考 社会福祉学研究におけるソーシャルアクション」

・シンポジウム：「社会福祉学研究と実践の新たな枠組み—ソーシャルアクションを志向する研究・実践に求められるもの—」

・自由研究報告：22 演題（研究報告部門 16 題、萌芽的研究報告部門 4 題、実践報告部門 2 題）

○研究奨励賞の授与（1 名）

(3) 社会福祉学評論

○電子ジャーナルで、社会福祉学評論 13 号を発行

○編集規定・執筆要項を改訂し、担当編集委員の役割分担等、査読体制を構築

○2014 年中（4 月～12 月）に 13 件の投稿あり

(4) ホームページ

○2009年12月より運用開始

- ・ホームページコンテンツの充実や関東大会抄録集、ニューズレター等をPDFで掲載
 - ・毎日平均100～250件のアクセス
- ##### ○コンテンツとして、電子ジャーナル化された機関誌「社会福祉学評論」の一般公開をメインに、研究大会、ニューズレター、運営委員会、新着のお知らせなど。その他、関東地区で開催の公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義の情報等を紹介するページを設置
- ##### ○会員情報管理システム（SOLTI）によるメール配信サービスと連携し、情報発信を実施
- ・社会福祉学評論13号発行のお知らせを2014.11.14に一斉配信
 - ・メールマガジンを2015.1.19に一斉配信

(5) ニューズレター

- ##### ○関東部会ニューズレターNo.18（8ページ）を2014.12.24に発行し、関東部会研究大会チラシを同封し、関東部会会員に郵送

中部地域ブロック 2014年度 事業報告書

1. 2014年度において推進した事業

2014年度の事業計画で挙げた、(1) 研究例会の開催、(2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第6号の刊行、(3) 「大学院生・若手研究者のための勉強会」の開催、(4) 学会フォーラムの開催、そして(5) 常任幹事会の開催について、以下のように実施した。

(1) 研究例会の開催

2014年4月19日（土曜日）10:00～12:05 日本福祉大学名古屋キャンパス

10:00～12:05 「自由研究発表」（報告者5名、参加者22名）

10:00～12:10 「大学院生・若手研究者のための勉強会」（日本福祉大学健康社会研究センター主任 研究員・伊藤美智子会員「私の研究ポートフォリオー修士課程から現在までの研究プロセス」の発題と討議）（参加者11名）

12:05～13:00 第1回幹事会(拡大)(出席者13名)

13:00～16:20 シンポジウム『差別・スティグマの今日的課題

—障害者差別解消法と生活保護から考える』（参加者41名）

シンポジスト：放送大学・大曾根寛会員

愛知 TRY2013 実行委員長・近藤佑次氏

日本福祉大学・山田壮志郎会員

コーディネーター：金城学院大学・柴田謙治

16:30～17:00 「総会」（出席者13名）

(2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第6号の刊行(2015年3月)

投稿された論文8本、研究ノート1本、調査報告1本に対して、論文6本、研究ノート1本、調査報告1本が掲載された。日本社会福祉学会のホームページの中部ブロック部会にアップロード

(3) 若手研究者のための勉強会「社会福祉研究の方法を学ぶ」の開催(2回)

1回目は研究例会の10:00~12:10を参照。

2回目は2015年2月8日(日) 10:00~11:55 金城学院大学で実施(参加者36人)

10:00~10:05 本勉強会の趣旨説明 (谷口由希子会員)

10:05~11:00 私の研究方法の紹介 (林祐介会員、名南ふれあい病院)

私の研究方法の紹介 (上村勇夫会員、日本社会事業大学)

11:00~11:55 若手研究者に向けたメッセージ

(岩田正美日本社会福祉学会会長、日本女子大学)

11:55~12:00 質疑応答・意見交換

司会 山田壮志郎会員(日本福祉大学)

(4) 第11回日本社会福祉学会フォーラム「地域包括ケアシステム構築の論点」

2015年2月8日(日) 13:00~17:00 金城学院大学で実施(参加者139人)

13:00~13:10 開会挨拶 岩田正美(学会会長・日本女子大学)

13:10~14:20 基調講演 「地域包括ケアシステム構築にむけての論点」

二木立(日本福祉大学学長・日本学術会議連携会員)

14:20~14:30 休憩

14:30~16:50 シンポジウム 「地域包括ケアシステムの課題ー現場からの報告ー」

14:30~15:40 「地域包括ケアシステムの課題ー現場からの報告ー」

竹内武 (茅野市健康福祉部)

澤田道 (半田市包括支援センター)

高橋健輔 (名古屋市瑞穂区西部いきいき支援センター)

15:40~16:10 コメント「地域包括ケアシステムの構築にむけた論点整理」

松端克文 (学会理事・桃山学院大学)

野口典子 (中京大学)

コーディネーター 原田正樹(学会理事・日本福祉大学)

16:10~16:50 ディスカッション

16:50 閉会挨拶 柴田謙治(中部ブロック部会担当理事・金城学院大学)

17:00 終了

(5) 常任幹事会の開催(第1回は拡大幹事会をカウント)

第2回 2014年5月29日(木)18:30~ 日本福祉大学名古屋キャンパス 13人出席

第3回 2014年9月10日(水)15:00~ 日本福祉大学名古屋キャンパス 12人出席

第4回 2015年1月8日(木)18:30~ 日本福祉大学名古屋キャンパス 11人出席

2. 現在、検討している事項

常任幹事以外の幹事(長野県、石川県、富山県、静岡県の6校からの幹事)の再選出。静岡県立短期大学と福祉県立大学所属の幹事以外は、連絡を取れない状態である。

関西地域ブロック 2014年度 事業報告書

1. 2014年度において推進した事業

(1) 理事会(地域部会委員会)の開催

・第1回

日時：2014年6月30日(月) 18:30～20:50

会場：龍谷大学響都ホール校友会館

審議事項：

1. 2013年度決算 最終報告について
2. 2014年予算について
→機関誌発行に伴う経費に応じて、補正を組む可能性があることについて
3. ニュースレター第1号の発行について
4. 若手研究者・院生情報交換会について
5. 機関誌発行について
6. 年次大会について
7. 次年度の役員体制(「関西社会福祉理事および監事選出規則」の改訂含む)について
→次回の第2回理事会(10月頃開催予定)において審議予定
8. その他

・第2回

日時：2014年10月14日(火) 19:00～20:50

会場：キャンパスプラザ京都6階 龍谷大学サテライト教室(第7講習室)

審議事項：

1. 年次大会について
2. 次年度の役員体制について
3. 機関誌の発行について
4. 補正予算について
5. 若手研究者・院生情報交換会について
6. ニュースレターについて
7. その他・第3回

※18:00～19:00 2014年度年次大会開催校(花園大学)との打ち合わせ

・第3回

日時：2015年3月9日(月) 18:00～20:50

会場：大阪駅前第2ビル 6階 108教室 大阪市立大学梅田サテライト

審議事項：

1. 2014年度事業報告（案）
2. 2014年度補正予算（案）
3. 2014年度決算（案）
4. 2015年度事業計画（案）
5. 2015年度予算（案）
6. 次期（2015年度）の理事・監事について
7. B会員加入審査
8. 2014年度年次大会・総会の確認
9. 2015年次大会および学会フォーラムの開催依頼について
10. 2015年度若手研究者・院生情報交換会について
11. 2015年度ニュースレターについて
12. 機関誌『関西社会福祉研究』第2号について
13. その他

（2）若手研究者・院生情報交換会

・第31回

日時：2014年10月18日（土）14:00～17:00

会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス

テーマ：「地域包括ケアとソーシャルワーク」

報告者：白澤政和（桜美林大学大学院老年学研究科教授・大阪市立大学名誉教授）

参加者：21名

・第32回

日時：2014年12月13日（土）14:00～17:00

会場：桃山学院大学梅田サテライト

テーマ：「認知症ケアを通じて考える日本の福祉」

報告1：水上然（神戸学院大学講師）高齢者虐待の評価研究—現場実践者との共同から—

報告2：清原舞（関西福祉科学大学助教）「スウェーデンの高齢者福祉」

報告3：大塚保信（日本ソーシャルワーカー協会）「現代社会と高齢者福祉」

報告4およびコーディネーター：川井太加子（桃山学院大学社会学部社会福祉学科教授）

参加者：12名

・第33回

日時：2015年3月8日（土）14:00～17:00

会場：キャンパスプラザ京都6階 龍谷大学サテライト教室（第7講習室）

テーマ：「ソーシャルワークと社会正義 —日本の社会福祉は貧困にどう対峙するか—」

報告1：石坂誠（佛教大学院社会福祉研究科博士課程）

「貧困者・生活窮支援のあり方について考察—2つの調査と若者の貧困の実態から—」

報告 2 : 中野加奈子 (大谷大学)

「京都のホームレス問題実際と見逃されてきた貧困」

コメンテーター : 伊藤文人 (日本福祉大学)

コーディネーター : 志賀信夫 (一橋大学大学院社会学研究科特別研究員)

参加者 : 17 名

(3) 年次大会 (2014 年度大会)

日時 : 2015 年 3 月 21 日 (土) 9:30~19:00

場所 : 花園大学 惺々館

大会テーマ : 「児童虐待の現状と課題について」

講演 「児童虐待の現状と課題について」 津崎哲郎 (花園大学社会福祉学部教授)

鼎談 「親および子どもの支援で何が必要か~当事者の経験に学ぶ~」

NPO 法人虐待問題研究所 上原よう子

春陽法律事務所 石田 文三

花園大学社会福祉学部 教授 津崎 哲郎

プログラム : 9:30 受付開始
10:00~12:00 自由研究発表 (4 教室 301・302・303・304 教室)
12:00~13:00 昼食休憩
13:00~13:50 年次総会 (300 教室)
14:00~ 開催校挨拶、講演
17:00 鼎談
17:30~19:00 懇親会

(4) ニュースレターの刊行

- ・ 2014 年度第 1 号 2014 年 9 月 30 日発行
- ・ 2014 年度第 2 号 2015 年 1 月 5 日発行

(5) 機関誌『関西社会福祉研究』編集委員会

編集委員会委員 : 小野達也、小山隆、阪口春彦、石黒暢、野村裕美

(参考 機関誌発行準備委員会委員 : 小野達也、小山隆、上掛利博、岩間伸之、松端克文)

・ 機関誌発行準備委員会の開催 (2 回)

第 1 回 準備委員会 2014 年 4 月 21 日

投稿方法の検討、編集委員会についての検討

第 2 回 準備委員会 2014 年 6 月 3 日

企画内容の検討、スケジュールの検討

・ 編集委員会の開催 (3 回)

第 1 回 編集委員会 2014 年 6 月 29 日

役割分担、企画内容の確認、発行までのスケジュールの検討

第2回 編集委員会 2014年9月14日

査読の流れの確認、査読者の決定・連絡の分担

第3回 編集委員会 2015年1月12日

原稿の確認

・機関誌編集作業の流れ

* 投稿論文の募集（投稿締切 2014年8月31日）

* 編集委員会による特集の企画および査読者の選任と査読依頼

* 査読者による査読

* 編集委員会にて査読結果に基づき掲載の可否、掲載区分の決定

* 投稿者への通知と校正

* 「創刊号」発行・会員への郵送（2015年3月）

2. 現在、検討している事項

- ・全国の代議員選挙・理事選出制度に合わせて、「関西社会福祉学会理事及び監事選出規則」を改訂し、理事及び監事の選出の方法を改訂した。

3. その他（課題等）

- ・年次大会の開催時期が、入試や同様の各種大会と重なることから、運営体制や参加者確保等について、検討する必要がある。

4. 関西社会福祉学会の独自財源の使途について

- ・関西社会福祉学会の独自財源の使途については、今年度は機関誌『関西社会 福祉研究』の刊行。経費の不足分にその一部を充当した。
- ・次年度以降についても、機関誌刊行費用に充当するなど、使途について検討する。

中国・四国地域ブロック 2014年度 事業報告書

1. 2014年度において推進した事業

(1) 中国・四国部会委員会の活動強化（「部会委員会」）

①部会委員会の出席率（委任状を除く）は、3回開催（6月、12月、3月）の平均は67.5%であり、目標値の80%には及ばなかった。大学が休業中には平日にも開催したが、日程調整が困難な状況は変わらなかった。欠席委員については議案書及び議事録を送付し、部会委員会の活動を共有するように努めた。

②2011年度より、部会委員に担当制を敷くことにより、各委員の担う責任、権限、手続が明確化され、円滑な委員会運営が可能となってきた。しかし、各担当の諸所業務等についての明文化までには至っていない。

② ブロック活動の迅速化、部会委員会の意思決定の促進を図るため、委員長、副委員長、事

務局長からなる事務局会議を部会委員会で位置づけたが、必要性がなく 2014 年度は開催しなかった。

事業達成度自己評価（具体的計画項目・目標）：おおむね達成

(2) 中国・四国地域ブロック 2014 年度第 45 回大会の開催

①開催日時場所等

日時：2014 年 7 月 5 日（土）9:30-16:30

場所：県立広島大学

大会長：県立広島大学 三原博光

②テーマ 「発達障がい児のインクルージョンをめざして」

③内 容 基調講演（アンスガール・シュトラッケ・メアテス博士：ドイツアーヘン市教育研究所 所長）

シンポジウム：「子ども達の生き生きと育つ権利を保障するために— 教育・医療・福祉のコラボレーション—」

自由研究発表

新ワークショップ「若手研究者のための研究方法について」

④参加者

総参加者：136 名（会員 43 名、非会員 13 名、院生・学生 80 名）

自由研究報告数：17 題

⑤評価

- ・ 基調講演、シンポジウムの内容から、参加者は発達障がい児のインクルージョン教育福祉の問題の重要性を世界的動向のなかから新たに認識し、現在の生活環境のなかで、参加者が発達障がい児への教育・福祉の支援を積極的に実践することの必要性を感じとれたのではないかと思われる。
- ・ 自由研究発表は 17 演題の申込みがあり、「高齢者」「医療」「政策・歴史」「児童」の 4 つのテーマ会場に分かれて、若手の大学院生を中心に積極的な研究自由発表が行われ、質疑応答が活発に行われた。
- ・ ワークショップでは「若手研究者のための研究方法について」というテーマで、若手研究者育成のための研究方法の議論が活発に行われた。
- ・ 徳島文理大学及び徳島大学の会員を事務局体制として円滑に実施できた。
- ・ 地理的に各地域から遠隔地にあったが、地元参加者を中心に例年通りの参加者があった。
- ・ 本大会の事前周知・報告については、中国・四国地域ブロック会報 13-1 号にて、全会員に情報提供を行った。

事業達成度自己評価（具体的計画項目・目標）：十分達成

(3) 2014 年度中国・四国地域ブロック総会の開催

①開催日時場所等

日時：2014 年 7 月 5 日（土）12:10-12:50

場所：県立広島大学

②議案

第1号議案 2013年度事業報告および決算、監査報告

第2号議案 2014年度事業計画（案）及び予算（案）

第3号議案 2013年度独自会計決算・監査報告

③報告事項

1 地域部会委員会委員について

2 機関誌「中国・四国福祉研究」について

3 2014年度以降の地域ブロック大会の予定について

4 2014年度社員総会及び理事会報告

5 独自会計の用途

④出席者 約20名 事業達成度自己評価（具体的計画項目・目標）：十分達成

(4) 中国・四国地域ブロック会報の発行

①発行回数 年3回

②内容 地域ブロック大会等活動の案内を中心に行った。

事業達成度自己評価（具体的計画項目・目標）：十分達成

(5) 中国・四国地域ブロック機関誌「中国・四国社会福祉研究」の発行

①発行回数 年1回（2015年3月）

②発行形態 電子ジャーナル

③内容 地域ブロック大会基調講演録および投稿論文数1編

④査読者の確保、投稿数の増加が今後の課題

事業達成度自己評価（具体的計画項目・目標）：おおむね達成

(6) 会員連携の共同研究及び大学院生・若手研究者支援の方策の検討

①大学院生・若手研究者支援にかかる事業を地域ブロック大会のプログラムとして実施した。

②会員連携の共同研究

2月22日（日）に地域福祉学会四国ブロックラウンドテーブル（松山大学）終了後、準備会を発足させた。今後、研究担当を中心に2015年度に本格稼働させることを確認した。

事業達成度自己評価（具体的計画項目・目標）：十分達成（大学院生・若手研究者支援の方策の検討）、概ね達成（会員連携の共同研究）

2. 現在、検討している事項

①事務局及び機関誌編集委員会の業務負担の軽減策の検討

3. その他（課題等）

①機関誌の査読委員の確保及び論文掲載数の増加

②部会委員会の出席率8割以上を確保する

③会報配信・周知徹底のためメーリングリスト登録の勧奨

④会員連携による共同研究の本格稼働

1. 2014 年度において推進した事業

(1) 運営委員会の開催

第1回運営委員会

2014年6月28日 運営委員5名および九州部会代表出席

第2回運営委員会

2015年2月18日 運営委員4名および九州部会代表出席

(2) 研究大会（第55回）の開催

2014年6月28日～29日

開催校：鹿児島国際大学

開催場所：鹿児島国際大学

大会テーマ「保健・医療・福祉の連携から統合へ」

内 容：基調講演「生涯発達ダイナミクスと保健福祉学」

基調講演者 安梅勅江（筑波大）

シンポジウム：「保健・医療・福祉の統合と課題」

シンポジスト 片岡靖子（久留米大）、茶屋道拓哉（九州看護福祉大）

中山慎吾（鹿児島国際大）

コーディネーター 高山忠雄（鹿児島国際大）

コメンテーター 安梅勅江（筑波大）

自由研究発表 22名

大会参加者 148名

(3) 2014 年度定期総会の開催

2014年6月29日

会 場：鹿児島国際大学

議事内容

2013 年度事業報告

2013 年度収支決算および会計監査報告

2014 年度事業報告

(4) 機関誌「九州社会福祉学第11号」の発行

投稿論文数：12本 論文掲載数：7本

編集作業を次の手続きにより実施

- ① 査読者（各論文2名）による査読結果に基づき、修正など投稿者に依頼
- ② 修正された論文について編集委員会を開催し（2015年2月18日）、掲載の可否、掲載区分を決定（論文7編の掲載）。投稿者に結果通知。
- ③ 論文の校正
- ④ 2015年3月に会員あて発行

一般社団法人日本社会福祉学会 第4期(通算第25期) 役員担当業務一覧

別表一①

氏名	主たる担当業務	担当委員会委員等	備考
岩田 正美	会長	運営委員会	社会政策関連学会協議会
副田あけみ	副会長 国内渉外担当	運営委員会	社会学系コンソーシアム
		地域ブロック担当者委員会(委員長)	社会福祉系学会連合(会長)
黒木 保博	副会長 国外渉外担当	運営委員会	社会学系コンソーシアム
		国際学術交流促進委員会(委員長)	ソーシャルケアサービス従事者研究協議会
岩崎 晋也	総務担当	運営委員会(事務局長)	事務局連絡会担当
			ソーシャルケアサービス従事者研究協議会
			社会政策関連学会協議会
秋元 美世	財務担当	運営委員会	
		全国大会運営委員会	
		地域ブロック担当者委員会	
山縣 文治	研究担当	運営委員会	
		研究委員会(委員長)	
		全国大会運営委員会(委員長)	秋大会担当
鬼崎 信好	研究担当	学会賞審査委員会	
		全国大会運営委員会	秋大会担当
和気 純子	財務担当	運営委員会	事務局連絡会担当
		全国大会運営委員会	日本社会福祉系学会連合(事務局長)
		地域ブロック担当者委員会	
小澤 温	研究担当	研究委員会	
		研究倫理委員会(委員長)	
小西 加保留	機関誌担当	機関誌編集委員会(副委員長)	
原田 正樹	研究担当	研究委員会	
		全国大会運営委員会	フォーラム、春大会担当
湯澤 直美	渉外担当(広報)	広報委員会(委員長)	
山辺 朗子	総務担当	運営委員会(事務局次長)	事務局連絡会担当
松本 伊智朗	地域ブロック担当	北海道地域ブロック担当	
		研究倫理委員会	
都築 光一	地域ブロック担当	東北地域ブロック担当	
		全国大会運営委員会	フォーラム、春大会担当
高山 直樹	地域ブロック担当	関東地域ブロック担当	
		研究倫理委員会	
柴田 謙治	地域ブロック担当	中部地域ブロック担当	
		機関誌編集委員会(委員長)	
松端 克文	地域ブロック担当	関西地域ブロック担当	
		国際学術交流促進委員会	
横山 正博	地域ブロック担当	中国・四国地域ブロック担当	
		国際学術交流促進委員会	
倉田 康路	地域ブロック担当	九州地域ブロック担当	
		全国大会運営委員会	秋大会担当
小林 良二	監事		
市川 一宏	監事		

一般社団法人日本社会福祉学会 各種委員会構成

◎:委員長 / ○:副委員長

別表一②

委員会名	第3期委員会委員			
機関誌編集委員会	◎柴田謙治 坏 洋一 金子絵里乃 滝村雅人 室田信一	○小西加保留 岩永理恵 木下武徳 竹本与志人 山本真実	沖倉智美 久保美紀 野口友紀子 結城俊哉	奥西栄介 志村健一 三島亜紀子
学会賞審査委員会	◎古川孝順 太田貞司 福山和女	大友昌子 牧里每治	岡部 卓 松原康雄	鬼崎信好
広報委員会	◎湯澤直美 飯村史恵	小櫃俊介	西郷泰之	酒本知美
研究委員会	◎山縣文治 小澤 温 都築光一	鬼崎信好 原田正樹	久保美紀	倉田康路
国際学術交流促進委員会	◎黒木保博 松端克文 室田信一	横山正博 蘇 珍伊	志村健一 包 敏	金 圓景 羅 佳
研究倫理委員会	◎小澤 温 高山直樹	西原雄次郎	松本伊智朗	吉川かおり
全国大会運営委員会	◎山縣文治 秋元美世 後藤広史 岩崎 香 門田光司	鬼崎信好 都築光一 田中英樹 岡村正幸	久保美紀 原田正樹 増田和高 岡崎祐司	倉田康路 和気純子 片岡靖子
地域ブロック担当者委員会	◎副田あけみ 秋元美世 高山直樹 倉田康路	和気純子 柴田謙治	松本伊智朗 松端克文	都築光一 横山正博